



非常用備蓄食品を詰める「白い小箱」を組み立てる生徒たち＝津市観音寺町の三重大学教育学部付属中で

### 備蓄食料 大切さ知る

#### 三重大付属中で防災学習会

津市観音寺町の三重大

大学教育学部付属中学

校で一日、防災備蓄学

習会があった。全校生

徒四百三十二人が、災

害時に必要な非常用備

蓄食品について知識を

う、県内を中心に呼び

深めた。

備蓄品の普及に取り

組む日本非常食推進機

構(四日市市)が協

力。機構は水や缶詰を

各家庭で常備するよ

う、県内を中心に呼び

掛けており、活動は非常  
常用備蓄食品を詰める  
箱から「白い小箱運  
動」と呼ばれている。  
箱には五百ミリのペッ  
トボトル飲料水二本と  
氷砂糖一袋、簡易用ト  
イレが入っている。  
生徒たちはそれぞれ  
詰などを自宅から持つ  
てきて「白い小箱」に  
詰めた。機構の古谷賢  
治さん(四)は「災害時  
に必要な食料は何かを  
考えることで、生徒た  
ちの防災意識を高めて  
もらいたい」と話し  
た。一年生の小林聖利  
那さん(三)は「家で備  
蓄している食料は袋に  
入っているもので、より  
丈夫な箱に変えたい」  
と感想を述べた。

(大島宏一郎)